

HimawariCast: ソフトウェア設定方法

平成 28 年 5 月 19 日版

気象庁が提供するソフトウェアを利用することにより、HimawariCast で受信した衛星画像 (HRIT ファイル) を SATAID 形式に変換し、SATAID ソフトウェアで他の SATAID 形式のデータとともに表示できるようになります。ソフトウェアは 8GB 以上のメモリを搭載した Windows 上で動作します。この文書では、このソフトウェアを利用するための各種設定方法を紹介します。

1. KenCast Fazzt Professional Client

1.1. インストールの準備

1.1.1. Windows Update の実行

Windows Update を実行して OS を最新の状態にします。

1.1.2. データベースソフトウェアのインストール

Microsoft SQL Server 2005 Express Edition SP 4 をインストールしてください。

(注) インストールフォルダは、変更しないでください。

1.1.3. 7-Zip のインストール

下記ウェブサイトから 7-Zip を入手してください。(64 ビット OS の場合は、64 ビット版を入手してください。)

<http://www.7-zip.org/download.html>

ウィザードに沿ってインストールしてください。

(注) インストールフォルダは、変更しないでください。

1.1.4. HimawariCast ソフトウェアのインストール

下記ウェブサイトから気象庁が提供する HimawariCast ソフトウェアを入手してください。

http://www.data.jma.go.jp/mscweb/ja/himawari89/himawari_cast/transition.html

入手した Himawari Cast_software.zip を解凍してください。以下の 2 つのフォルダが現れます。

KenCast

SATAID

このうち、SATAID フォルダを、C ドライブ直下に移動して、C:¥SATAID に配置してください。

1.1.5. フォルダの作成

以下のフォルダを作成してください。

C: ¥HRIT

C: ¥HRIT_in

C: ¥HRIT_tmp

C: ¥LRIT

C: ¥MANAM

C: ¥SATAID_Image

C: ¥SATAID_obs

C: ¥Temp

1.2. KenCast Fazzt Professional Client のインストール

1.2.1. Fazzt Client のインストール

Fazzt Client CD から、Windows 版 Fazzt Client をインストールします。Fazzt¥Windows フォルダにある FazztClient.exe を実行します。

Fazzt Client は、64 ビット OS の場合は、

C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast¥

に、32 ビット OS の場合は、

C: ¥Program Files¥KenCast¥

にインストールされます。以降は、64 ビット OS の場合を記しますので、32 ビット OS の場合は Fazzt Client のインストール先を適宜読み替えてください。

1.2.2. Fazzt スクリプトのインストール

Fazzt スクリプトを格納するため、Fazzt Client のインストール先に以下のフォルダを作成します。

C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast¥Fazzt¥Scripts¥Himawari Cast

1.1.4. で解凍して現れた KenCast フォルダに含まれる以下の Fazzt スクリプトを、上記フォルダに格納します。

DeleteFilesOlderThanN. fzt

Match10. fzt

CombineAnyway. fzt

ConcAndConvert. fzt

UnzipIncomingFiles. fzt

その後、1.1.4. で解凍して現れた KenCast フォルダは削除して構いません。

1.3. KenCast Fazzt Professional Client の設定

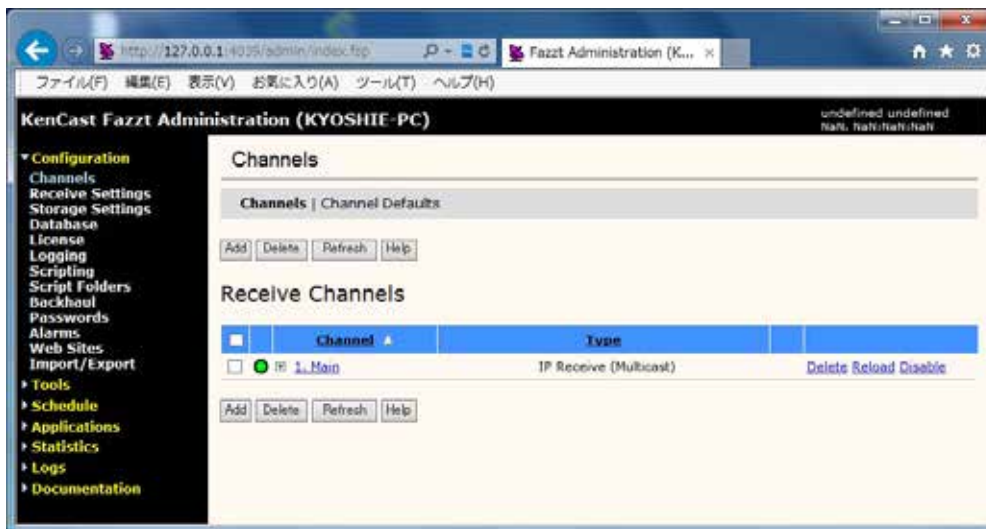
Fazzt Client の設定は、ウェブブラウザで行います。標準の URL は、以下のとおりです。

http://127.0.0.1:4039/

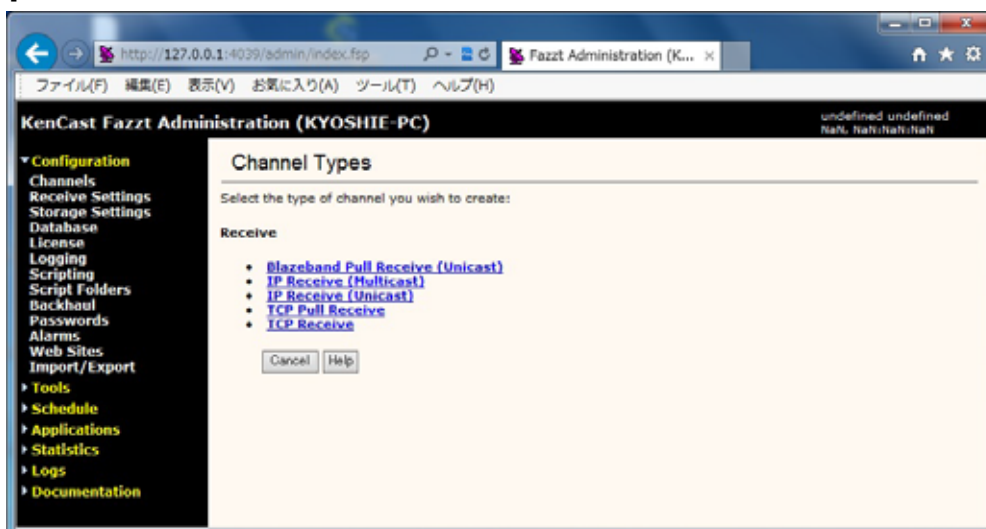
1.3.1. チャンネルの作成

データ受信をするためのチャンネルを作成します。

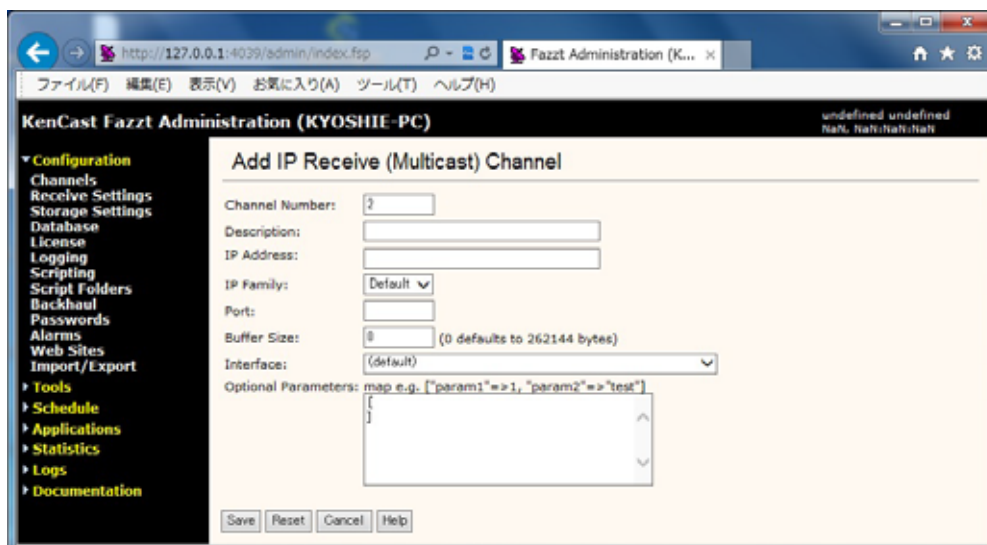
左側メニューの[Configuration] [Channels]を選択し、Channels 設定画面を表示します。



[Add]ボタンを押します。



Receive 項目から[IP Receive (Multicast)]を選択します。



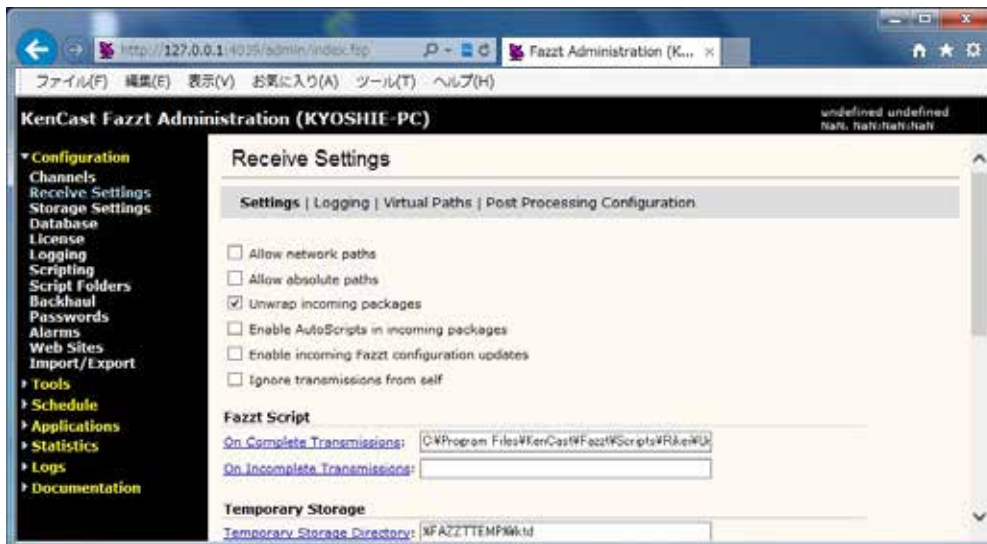
Add IP Receive (Multicast) Channel 設定画面にて必要項目を設定します。

Description:	(チャンネルの名前を入力します。例: Hi mawari Cast)
IP Address:	(マルチキャスト IP アドレスを入力します。 HimawariCast では 239.0.0.1 です。)
IP Family:	(IPv4 を選択します。)
Port:	(マルチキャストポート番号を入力します。 HimawariCast では 8001 です。)
Buffer Size:	6291456
Interface:	(使用するネットワークインターフェースを選択します。)

最後に[Save]ボタンを押します。

1.3.2. 受信設定

左側メニューの[Configuration] [Receive Settings]を選択し、Settings 設定画面を表示します。



以下の項目のチェックを外します。

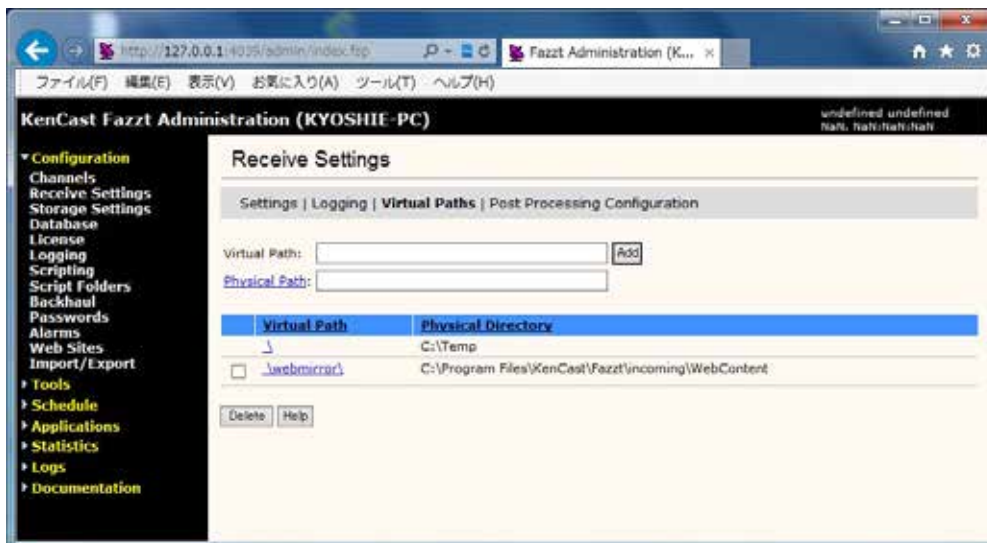
Allow network paths

Allow absolute paths

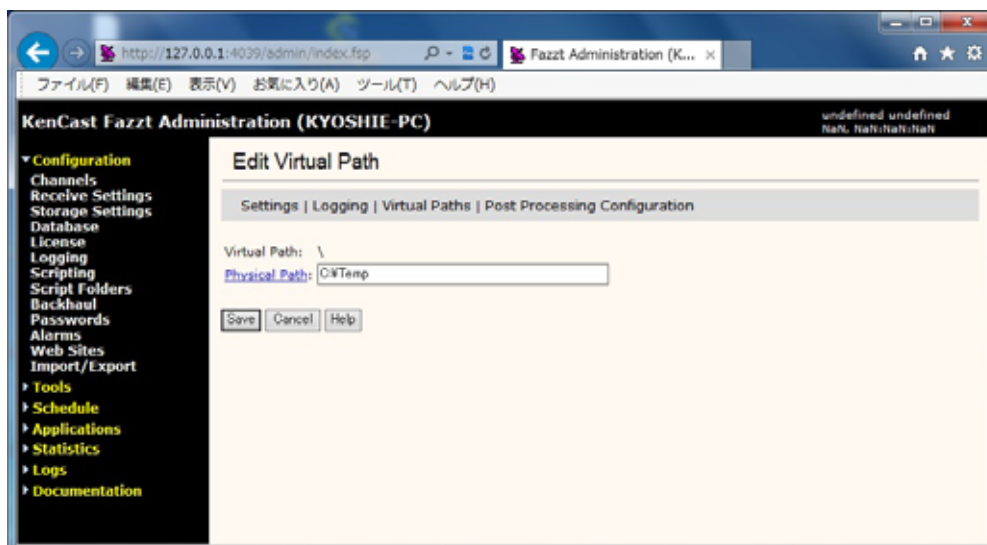
[On Complete Transmissions]をクリックし、以下の Fazzt スクリプトを選択します。

C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast¥Fazzt¥Scripts¥Hi mawari Cast¥
UnzipIncomingFiles.fzt

メニューバーから Virtual Paths 設定画面を表示します。



Virtual Path の [\] をクリックし、Edit Virtual Path 画面を表示します。



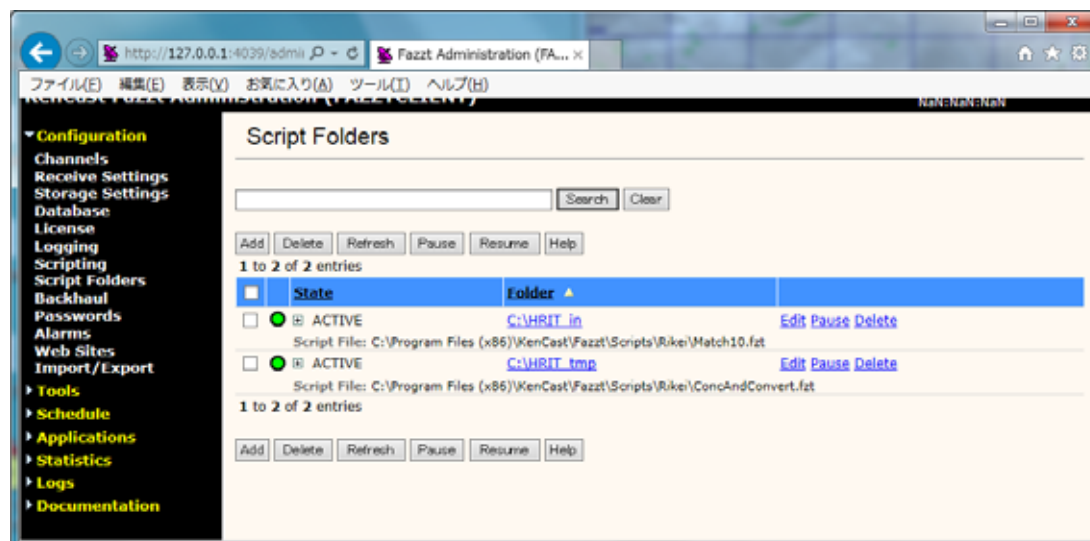
以下の値を設定し、[Save]ボタンを押します。

Physical Path:	C:¥Temp
----------------	---------

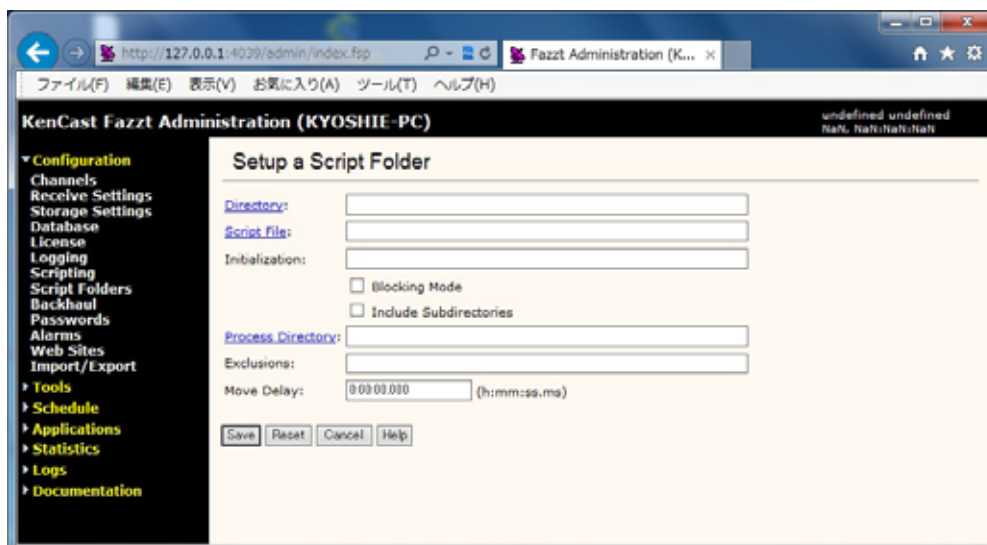
1.3.3. スクリプトフォルダの作成

スクリプトフォルダを2つ作成します。

左側メニューの[Configuration] [Script Folders]を選択し、Script Folders 設定画面を表示します。



[Add]ボタンを押します。



以下の値をそれぞれ設定し、[Save]ボタンを押します。

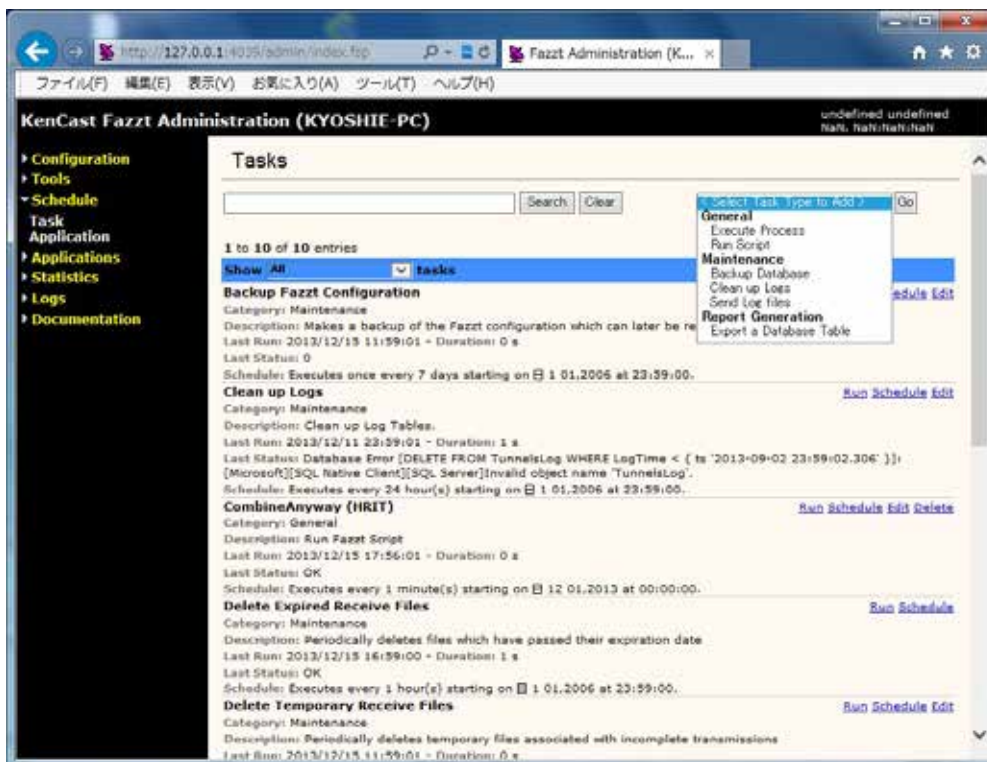
Directory:	C: ¥HRIT_in
Script File:	C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast ¥Fazzt ¥Scripts ¥Hi mawari Cast ¥ Match10. fzt
Blocking Mode:	(チェックを入れます。)

Directory:	C: ¥HRIT_tmp
Script File:	C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast ¥Fazzt ¥Scripts ¥Hi mawari Cast ¥ ConcAndConvert. fzt
Blocking Mode:	(チェックを入れます。)

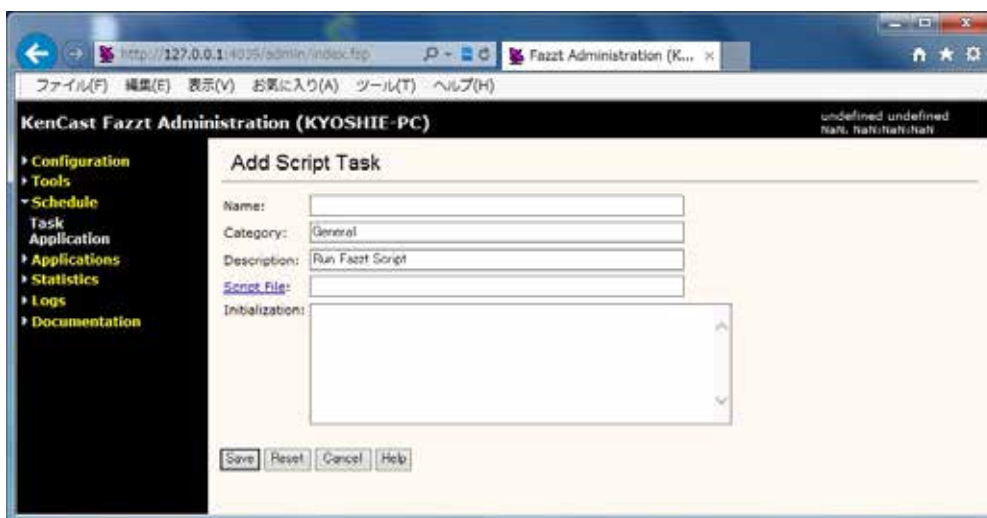
1.3.4. タスクの作成

Fazzt スクリプトを起動するタスクを 3 つ作成します。

左側メニューの[Schedule] [Task]を選択し、Tasks 一覧画面を表示します。プルダウンメニュー< Select Task Type to Add >より[Run Script]を選択します。



Add Script Task 設定画面にて必要項目を設定します。



以下の値をそれぞれ設定し、[Save]ボタンを押します。

Name:	Combine Anyway (HRIT)
Category:	Hi mawari Cast
Script File:	C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast ¥Fazzt ¥Scripts ¥Hi mawari Cast ¥CombineAnyway.fzt
Initialization:	<pre>map \$ExpTime = ["Minutes" => 25];</pre> <p>(注) HRIT ファイル受信の待ち時間を、観測開始時間からの時間で設定します。ひまわり7号の衛星画像が配信される際は40分に、ひまわり8号の衛星画像が配信される際は25分に設定することを推奨します。</p>

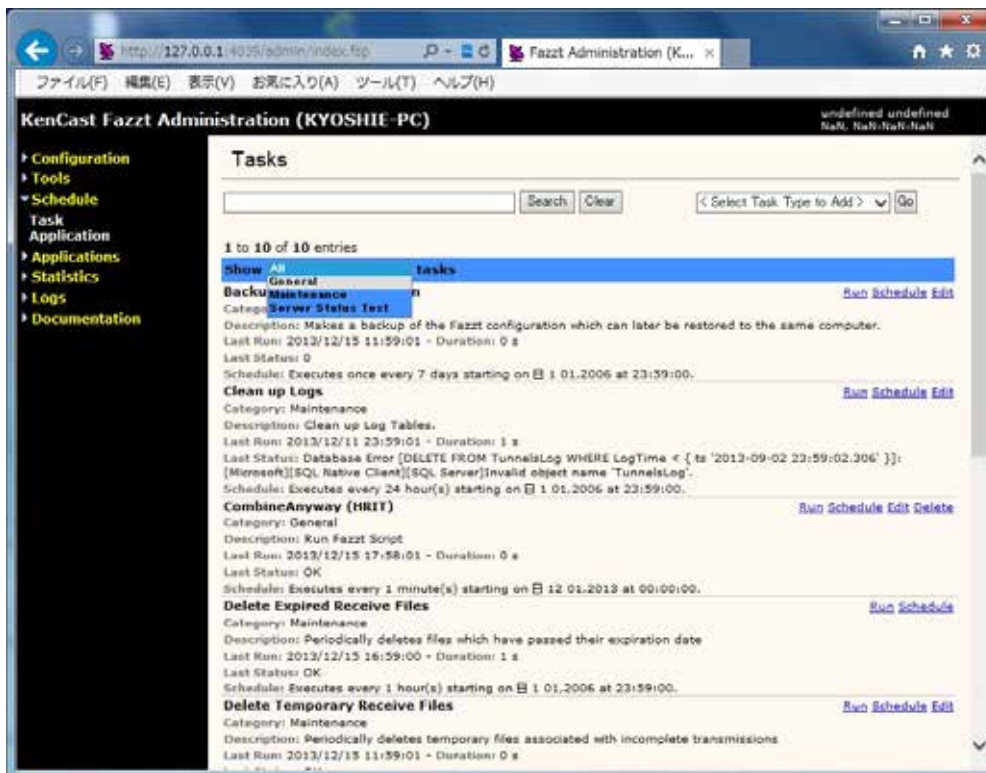
Name:	Delete Files Older Than N
Category:	Hi mawari Cast
Script File:	C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast ¥Fazzt ¥Scripts ¥Hi mawari Cast ¥DeleteFilesOlderThanN.fzt
Initialization:	<pre>\$FolderName = {"C: ¥¥HRIT", "C: ¥¥LRIT", "C: ¥¥MANAM", "C: ¥¥SATAID_Image", "C: ¥¥SATAID_Obs"};</pre> <pre>map \$ExpireTime = ["Days" => 7];</pre> <p>(注) 受信したファイルをPCに保存する期間を設定します。ハードディスクの容量等に応じて、適宜変更してください。</p>

Name:	Delete Files Older Than N (Temp Folders)
Category:	Hi mawari Cast
Script File:	C: ¥Program Files (x86) ¥KenCast ¥Fazzt ¥Scripts ¥Hi mawari Cast ¥DeleteFilesOlderThanN.fzt
Initialization:	<pre>\$FolderName = {"C: ¥¥Temp ¥¥HRIT_in", "C: ¥¥Temp ¥¥LRIT", "C: ¥¥Temp ¥¥MANAM", "C: ¥¥Temp ¥¥SATAID_Image", "C: ¥¥Temp ¥¥SATAID_Obs", "C: ¥¥HRIT_in ¥¥Process", "C: ¥¥HRIT_tmp ¥¥Process"};</pre> <pre>map \$ExpireTime = ["Minute" => 60];</pre>

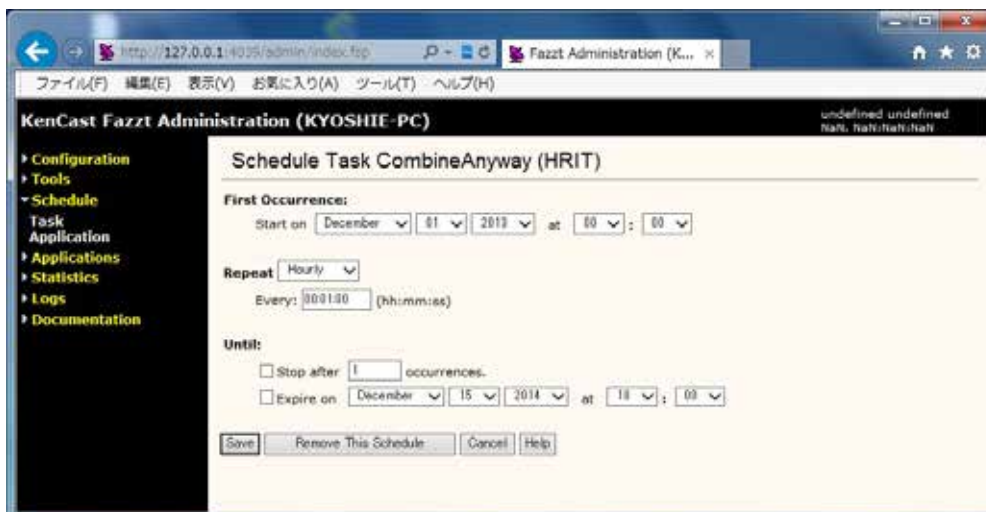
1.3.5. タスクのスケジュール登録

1.3.4. で作成したタスクをスケジュール登録します。

左側メニューの[Schedule] [Task]を選択し、Tasks 一覧画面を表示します。青帯状のプルダウンメニュー Show [All] tasks にて、[HimawariCast]を選択します。



設定対象のタスクの右側にある[Schedule]をクリックします。



以下の値をそれぞれ入力し、[Save]ボタンを押します。

Combine Anyway (HRIT)

Repeat:	Hourly
	Every: 00:01:00

(注) 1分間隔で作動します。

Delete Files Older Than N

Repeat:	Hourly
	Every: 01:00:00

(注) 1時間間隔で作動します。

Delete Files Older Than N (Temp Folders)

Repeat:	Hourly
	Every: 01:00:00

(注) 1時間間隔で作動します。

1.4. その他の設定

1.4.1. レジストリ変更によるバッファサイズ変更

レジストリを変更しますので、注意して実施してください。

レジストリエディターを起動します。(OS のバージョンにより、起動方法は異なります。)

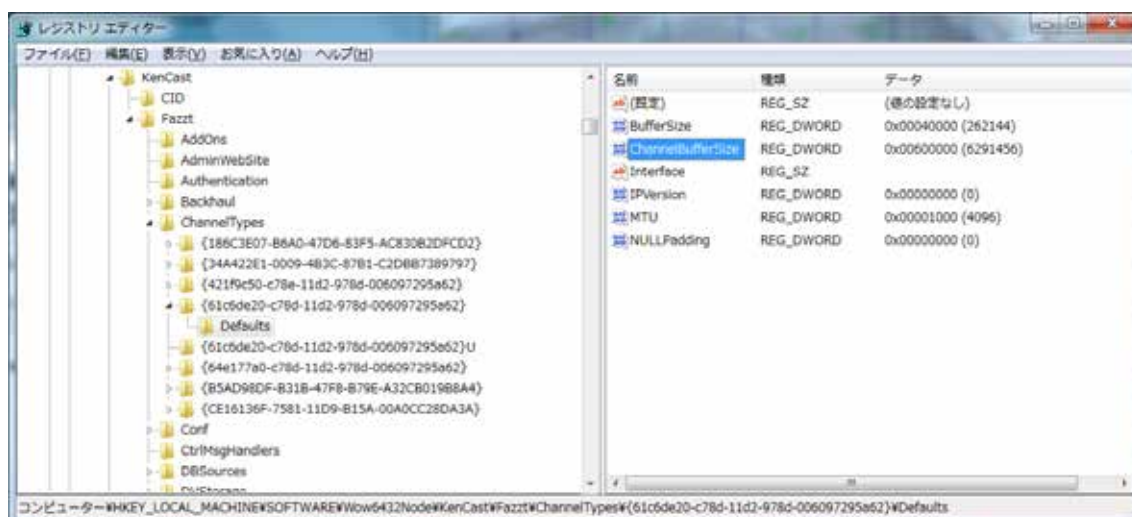
レジストリエディターの以下のフォルダを選択します。

64 ビット OS の場合:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\KenCast\Fazzt\
ChannelTypes\{61c6de20-c78d-11d2-978d-006097295a62}\
Default ts
```

32 ビット OS の場合:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\KenCast\Fazzt\
ChannelTypes\{61c6de20-c78d-11d2-978d-006097295a62}\
Default ts
```



Default ts フォルダの中の Channel BufferSi ze をダブルクリックし、表記を 10 進数にして、6291456 を入力します。

2. SATAID ソフトウェア

2.1. SATAID ソフトウェアの設定

2.1.1. sataid.ini の設定

C: ¥SATAID¥sataid.ini をメモ帳等で開きます。

PC の時計と UTC との時差を、3 行目に記載します。初期状態では、0 が設定されています。

```
' Time-difference between local time (PC built-in clock) and UTC
Time
0
```

2.1.2. sataid.vbs の設定

C: ¥SATAID¥sataid.vbs をメモ帳等で開きます。

OS に応じて、26 行目に以下のとおり実行ファイル名を記載します。

64 ビット OS の場合:

sGMSLP = "GMSLPD¥GMSLPD64.EXE"

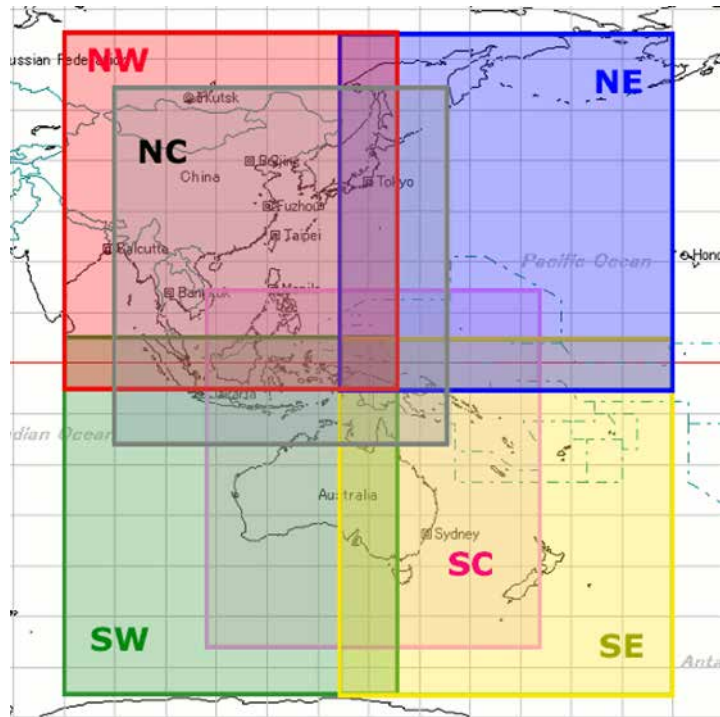
32 ビット OS の場合:

sGMSLP = "GMSLPD¥GMSLPD.EXE"

2.1.3. 表示領域の設定

SATAID ソフトウェアで表示する領域として、以下の 7 領域を用意しています。

領域:	緯度:	経度:	設定ファイル:
Full Disk	65N – 65S	80E – 200E (160W)	hri t2satai d_Ful lDi sk. i ni
North Central (NC)	55N – 15S	90E – 155E	hri t2satai d_NorthCentral. i ni
Northwest (NW)	65N – 5S	80E – 145E	hri t2satai d_Northwest. i ni
Northeast (NE)	65N – 5S	135E – 200E (160W)	hri t2satai d_Northeast. i ni
South Central (SC)	15N – 55S	107.5E – 172.5E	hri t2satai d_SouthCentral. i ni
Southwest (SW)	5N – 65S	80E – 145E	hri t2satai d_Southwest. i ni
Southeast (SE)	5N – 65S	135E – 200E (160W)	hri t2satai d_Southeast. i ni

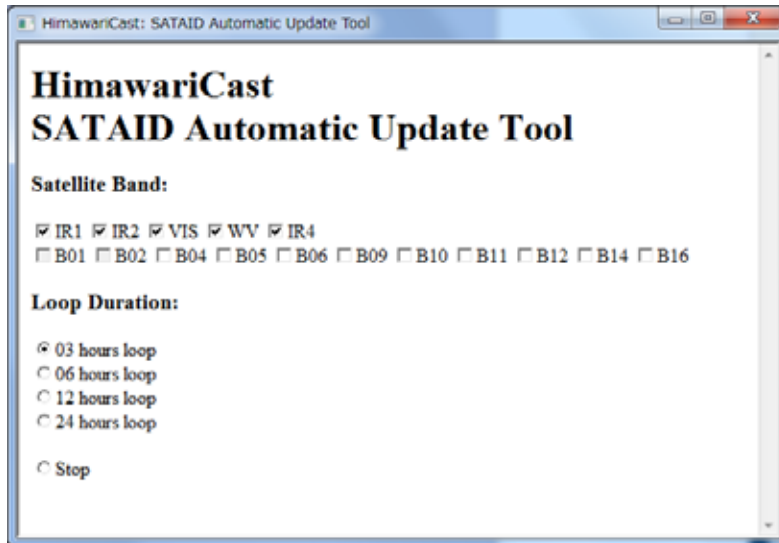


C:¥SATAID¥Program Files フォルダの設定ファイルのうち、表示する領域の設定ファイルを、hrit2sataid.ini にリネームします。初期状態では、North Central (NC)が領域として選択されており、hrit2sataid.ini は hrit2sataid_NorthCentral.ini と同一の内容になっています。

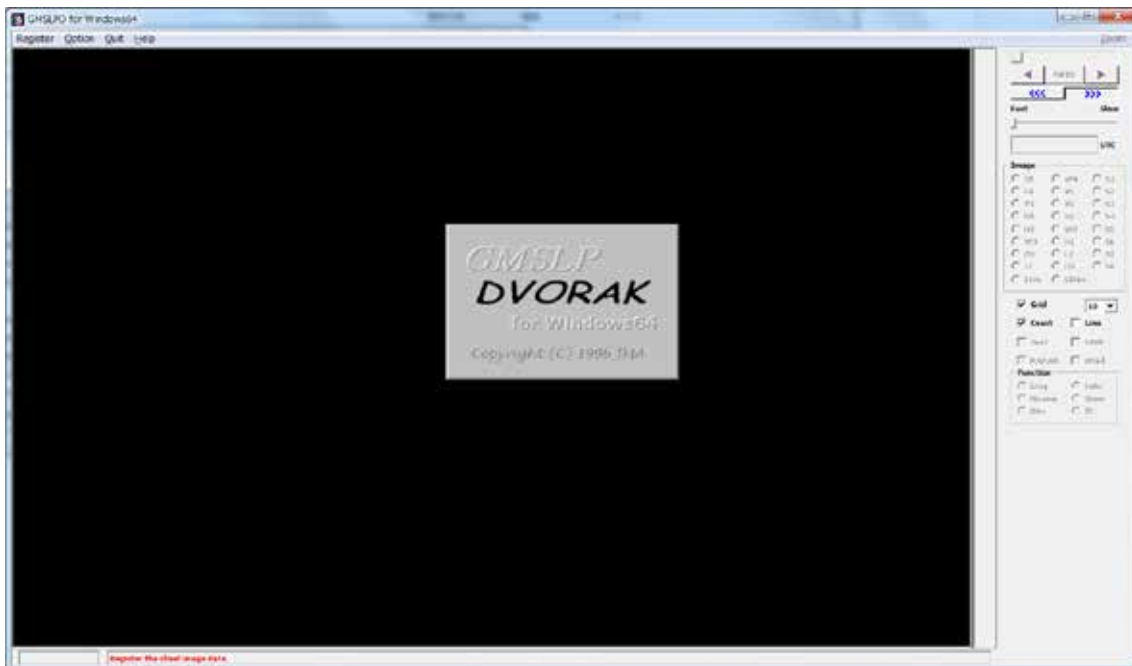
(注) 領域を Full Disk にした場合、表示する領域が広がるため、SATAID ソフトウェアが消費するメモリ量が多くなります。

2.1.4. SATAID 自動更新ツールの起動

C:¥SATAID¥Sataid_Loop.hta をダブルクリックし、SATAID 自動更新ツールを起動します。



次いで、SATAID ソフトウェアが自動的に起動します。



SATAID 自動更新ツールの[Satellite Band]でチェックしたバンドの衛星画像が、[Loop Duration]でチェックした時間分、SATAID ソフトウェアに読み込まれます。

(注) 読み込むバンドの数が多いほど、また、読み込む時間が長いほど、SATAID ソフトウェアが消費するメモリ量が多くなります。

SATAID ソフトウェアは、5 分ごとに最新の衛星画像を読み込んで、表示を更新します。SATAID 自動更新ツールの[Loop Duration]で[Stop]をチェックすることにより、この自動更新を一時停止することができます。

SATAID ソフトウェアには、ひまわりの衛星画像の各バンドに対応するボタンがあります。その対応表は以下のとおりです。

バンド	ボタンの名称
1	V1
2	V2
3	VS
4	N1
5	N2
6	N3
7	I4
8	WV
9	W2
10	W3
11	MI
12	O3
13	IR
14	L2
15	I2
16	CO